

★ 賛否を超えて 不可欠の証言

時流に抗して同時代史の空白を埋め、歴史の真実に迫ろうとした『蒋介石秘録』全十五巻が完結した。内外の大きな注目のなかで一九七四年八月十五日に本紙上で連載が始まり、翌七年二月に第一巻が刊行されて以来、今日の完結にいたったのである。

周知のように、半世紀に及ぶ中国革命の激動の数々、そして第二次世界大戦のドラマは、戦後三十年を経た時点で、ようやく、現代史の再構成という歴史

読書

な浮ついた時流が、わが国に存在していたとしても否定できない。それだけに、かえって『秘録』は待望されていたのだともいえる。

『秘録』が刊行されてからの内外の反響は大きかった。当の台湾においても、『中央日報』紙印本が相次いで出版されて人気を呼び、欧米やソ連の研究者のあいだにも、『秘録』を参照する人びとが目についた。

「悲劇の中国大陸」が第二次大戦終結録ともいえる序巻の序章「終戦前後」に ついて「マン戦争以後の清朝末期から筆を起し、日清戦争、列強の中国侵略にいたる中国革命の草創期をえがくところからはじまっている。そして最終の第十五巻「大陸奪還の誓い」が、大陸失陥前後の状況に加えて、中国文化大

た第十四巻「日本降伏」にいたるまで、いわば各論になっている。この間、中華民国の成立、軍閥の台頭と北伐、滿州事変、西安事件、瀋陽橋事件、日中戦争、国共内戦といった激動の過程を、無数の資料や証言によつてえがいている。それは、あなたも一大スペクタクルであり、

鋭い史眼と実証的筆致

『蒋介石秘録』の完結

方 中国側の反応もいちはずなく、紙上連載が開始されてまもない七四年十月日、鄧小平副総理(当時)は、在外華僑代表などの非公式会見で、『秘録』に言及したのであった。

★ あたかも一大スペクタクル

『蒋介石秘録』は、第一巻

革命、米中接近、そして「日華断交」にいたる日中関係八十年の総括を述べ、そのなかにはこれまで知られていなかった一九六四年四月四日付の「吉田書簡」が明らかにされるなど、貴重な資料を含みながらも、どちらかといえば総論的な構成になっているのは、辛亥革命をえがいた第二巻「革命の夜明け」から第二次大戦終結前後を描い



なかじま 実 中嶋 嶺 雄

また大河小説を読むような興味に誘われるが、そこに一貫して

懐の歴史であった。このような『秘録』が今日見結したこの意義は、きわめて多面的なものであろうが、私は、とくに、次の二点に言及したい。

★ 逆に時流が求めたもの

まず第一には、歴史的資料としての画期的意義である。最近アメリカでも外交文書の解禁が一九五〇年まで進み、中国からは毛沢東選集、第五巻の公刊や「毛沢東思想方談」の出現があり、またフルシチョフ回想録などによって連関の状況もかなり明らかになった。こうして、第二次大戦や戦後冷戦の再検討がすすみつつあるこの重要な時期に、『秘録』は刊行されたのであった。この点では、時流に抗した作業であり、逆に時流が求めたものであるといえなければならない。

★ 歴史の試練を直視しながら

第二には、日中関係と「以德報怨」で知られる蒋介石その人との重要なかつ不可分な結びつきを広く再確認させたこと、今日の意義である。この点では、まことに、『秘録』刊行中の一九七五年四月五日、蒋介石がその生涯を閉じたことが想起されねばならないが、同時に、『秘録』の刊行は、いわゆる日中正常化前後の中国ブームと日断交という歴史の試練を直視してなされたものであることを記すおはなるまで。

自閉症児とともに……

「この本を讀かれたときか……」

「開校準備にあわたたくし追われる中で書きました。この学校はほんとうにいろいろな方のお世話になって生まれたのですが、開校式をさうした方々へのお礼の気持ちを表すのは、菓子折りなどより、開校までの経緯を本にした方が、とすすめられ……」



全国初の「自閉症児と普通児との混合教育をめざして今春開校した私立武蔵野東小学校(東京都武蔵野市)校長、北原キヨさんの自伝的半生記。幼稚園園長として自閉症児の教育に大きな成果をあげ、注目を集めた北原さんが、「自閉児は必ず救える」という信念のもとに、その独特な教育法、技術をきひひらき確立していく道程が、十六歳で教壇に立つた三十数年前から今春の小学校開校までの歩みの中で語られてい

自閉症の療育には、時間と根気がいる。北原さんの武蔵野東幼稚園でせつかく回復し送り出したのに、また逆もどりする子どもが多かった。あつなら、小学生になつてはいるはずの、無学籍児も全国から集まつてきた。そして自閉症児をかかえ苦しまつた親たちの間で、「小学校をすくすく」といふ運動が起き、それが、さる四十七年、北原さん夫妻は息を止めず財産を処分して「億円」をへらした。親

「自閉児とのめへのあいを、自分の人生の幸運と願つています。幼稚園を始め、昭和三十九年、ある程度経験もあつたので、いちおう教育のことにはわかつたつもりで……」

「自閉児といひにいひつづめた親の気持ちにあふれて、自分が何も知らなかったことを思い知らされた。自閉児を回復させたことで親からおれをいわれる。六月、昨年発行して好評をえた「自閉児のための生活療法」(武蔵野東幼稚園の実践記録第一巻)の第二巻「幼児教育」を出す。

「『秘録』の刊行は、いわゆる日中正常化前後の中国ブームと日断交という歴史の試練を直視してなされたものであることを記すおはなるまで。」



「可能性を求めて」の北原キヨさん

「教育は生涯の長い仕事。五年、十年さき、育つた子どもを見たいなさい」といふ。小学校開校という一つのヤマを越えたいま、子どもたちの可能性を求め、つづける北原さんの、新たな戦いがまた始まったといえそう。

(たけい)社 一〇〇〇円

(東京外大教授)